

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果
作成日

令和 5年 1月 27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071200939		
法人名	社会福祉法人 渉久会		
事業所名	グループホーム桃の庵		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護 介護予防認知症対応型共同生活介護		
所在地	和歌山県紀の川市桃山町最上843-1		
自己評価作成日	令和5年(2023)1月16日	評価結果市町村受理日	令和5年3月17日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カロア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘4-4-33
訪問調査日	令和5年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中で、ご本人が自分らしく穏やかな生活を送る事が出来るように支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然・静かな環境の中、四季の移り変わりを感じることができる環境にあり、建物は天井が高く開放感があり、木を基調とし温かみのある造りになっています。また、ホーム独自の理念「明るく楽しくホッとできる暮らし地域の中で支え合い」と掲げ職員は利用者一人ひとりの生活歴や意向を把握し温かみのあるケアを実施し支援されています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「明るく楽しくホッとできる暮らし地域の中で支え合い」を月1回ある職員会議において理念の共有を図り、理念に沿っての実践に努めている。	グループホーム独自の理念を来訪者の目につきやすい所に掲示するとともに、毎月の会議にて理念を共有しケアを実践されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方とのつながりを大切にしている。近隣の方からの野菜や果物の差し入れがある。	現在は地域との交流も難しい現状ですが、コロナ禍以前は地域の行事にも積極的に参加されていました。また、コロナ終息後には交流が行えるよう計画を立てられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族や近隣の人に気軽に立ち寄ってもらえる雰囲気を中心にし、相談などによりやすいように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、利用者の状況や事故報告をして取り組みについて意見交換しているが、コロナウィルス流行後は書面開催で報告している。	基本、二ヶ月に一回会議を開催されていましたが、コロナ禍で行えず、文章にて会議内容をお知らせしご意見をいただいています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類や運営基準などの相談や、その他にも連絡を取り連携に努めている。	すぐ近くに保健福祉センターがあり、日頃から利用者の相談や苦情について意見を求めたり、感染対策に関する相談をしたりと気軽に相談できる良好な関係が築かれています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止マニュアルに基づいて研修を行い全員で取り組み、理解認識するよう努めている。	玄関は施錠されていますが、利用者が外に出たい時にはすぐに対応できるよう支援されています。また、3ヶ月に一回研修を実施し周知徹底されています。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルに基づいて研修を行い全員で取り組みを深め防止に努める。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度についても、利用者家族からの相談に応じているように取り組んでいる。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の際に、説明して納得している。改定事項等あればその都度説明している。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡などで、個々に要望など確認し対応している。	面会時に意見や要望などを聴き取り職員会議や運営推進会議にて報告し改善できるよう取り組まれています。	
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	職員会議やミーティングで意見交換の場を設け、必要に応じて法人代表者へも伝えるようにしている。	月一回の職員会議やミーティング時に意見や要望を聞き運営に反映できるよう取り組まれています。また、日頃より相談しやすい環境づくりに努められています。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の事情なども考慮した上で、法人代表者に相談しながら就業環境整備に努めている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修や外部研修への参加で資格取得、個々のスキルアップを図れるようにしている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人系列の施設職員間などで意見交換したりしている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活ペースを知り安心して生活が送れるように信頼関係を築き、不安感の解消に努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り本人及び家族からの希望要望に添えるように心がけ、訴えやすいような関係づくりに努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の現在一番困っている事などを確認して対応するよう心掛けている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人・家族の方との信頼関係を持てるようにして、ご家族と連携しながら共に支え合えるようにしている。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族の意見要望をその都度確認して信頼関係を深めるように努めている。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状・暑中見舞いなど季節の挨拶や、やり取りが出来るようにしている。	友人の面会や自宅への一時帰宅など家族の協力も得ながら馴染みの関係が継続できるように支援されています。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のトラブル回避に努めて必要に応じて職員が間に入り交流出来るように心掛けている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設などに移動された場合や入院された場合でも必要に応じて経過確認や相談に乗ったり出来るようにしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>これまでの生活歴や家族構成など、しっかり把握出来るように努めている。</p>	<p>入所時にアセスメントを作成し、本人の生活歴や意向の把握に努められています。また、日頃の何気ない会話の中からも情報収集を行い本人らしい暮らしが行えるよう支援されています。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>生活歴やこれまでのサービス利用時などでの情報収集に努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>本人の生活ペースを把握して、出来る事・出来ない事を見極めるようにし、現状の維持向上に努めるようにしている。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人及び家族の希望を確認して上で職員全員で話し合い介護計画を作成、状況に応じての介護計画を作成している。</p>	<p>事前に本人や家族の意見を確認しながら、職員とともに連携し計画の作成や随時見直しを行っています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の介護経過記録を確認しながら、必要に応じて特記を記入し、ケース会議・ミーティングなどで情報共有に努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>コロナウイルス流行の為、利用者のご家族や知人などに協力してもらい、楽しく過ごす事が出来るように努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナウイルス流行の為、利用者のご家族や知人などに協力してもらい支援している。</p>		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人及び家族の希望するかかりつけ医の受診対応、法人委託医による定期往診の診察、急変時の対応等、適切な医療を受けられるように配慮している。</p>	<p>基本的には法人委託医の往診となっているが、家族や本人の希望のかかりつけ医への受診も可能。また家族が対応できない時は、施設職員が受診の送迎・付き添い支援を行い、診察内容も適切に報告されています。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>医療連携体制を整備して看護師(兼務)による状態確認の上、適切な処置・対応が出来るように取り組んでいる。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入退院が円滑にできるようにサマリーやフェイスシートで病院担当者と情報交換している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化する前から本人や家族に終末期のあり方を確認し、法人医師や事業所、家族と話し合いをし、併設する法人とも連携を図り週末ケアの支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に意向確認がなされ、状態変化があれば随時話し合われています。また、重度化に伴い、ホームでの生活が難しくなった場合には、併設の特養や医療機関と連携し、本人・家族の望む終末期ケアに取り組まれています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時対応マニュアルに基づいて研修し、看護師に相談しながら適応な対応が出来るようにしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回避難訓練を実施し、災害対策マニュアルも整備、定期的に見直ししている。又いざという時には併設する施設職員や近隣地域への協力体制を依頼している。</p>	<p>夜間を想定した訓練を年2回行っており、3日分の食料や、ラタンなどの必要物品の備蓄も用意されています。また、地域の方々の避難所としての役割も担い、万が一に備えています。</p>	<p>運営推進会議を通じて区長さんと関係性が築かれています。その関係を活かし、防災訓練へ地域の方の参加を呼び掛けてもらえるよう働きかけてみてはいかがでしょうか。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>本人の生活リズムを尊重してプライバシー保護に配慮し対応している。特に排泄ケア時には個々に応じた対応に心掛けている。</p>	<p>定期的な研修が行われており、利用者一人ひとりを尊重した丁寧な言葉遣い、声の大きさやタイミング・場所などに配慮した対応がなされているのを見学の際に確認できました。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人の真の思いをしっかりと受け止めて、理解尊重するようにしている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個々の生活ペースをつかんで、ペースを乱す事のないよう配慮し柔軟な対応をしている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>季節やその日の天候に応じて服装を本人と共に決める事が出来るよう配慮している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>栄養バランスを考えながら、グループホームならではの献立で調理している。</p>	<p>下ごしらえなどの協力をいただき、一緒に食事作りをしています。希望をメニューに取り入れ、地域の方からの差し入れや旬の食材を活用し、ホーム内で調理し提供されています。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個々に応じて食事量、水分摂取量を確認し必要量を摂取出来るようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>個々に応じた口腔ケアをしている。</p>		

43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>個々の排泄パターンを把握し、パターンに応じてプライバシーに配慮した誘導介助をしている。</p>	<p>24時間の排泄チェック表を活用して、パターンやサイクルを把握し、ひとり1人の生活リズムに沿った支援を行っています。また、できる限りトイレでの排泄を大切にされています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分補給強化や乳酸菌飲料など工夫することや手作りの寒天ゼリーなどのおやつで水分補給と便秘予防に取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>利用者の希望や体調に合わせ、午前中の中入浴も出来るように個々に応じた入浴支援を柔軟に対応している。</p>	<p>週2回の中入浴を基本に、入居者の状態に合わせてリフト浴での入浴も可能です。また、同性介助にも対応し、温泉水での入浴や季節の変わり風呂を楽しむ事もでき、ひとり1人に合わせた入浴方法で支援されています。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々の生活ペースに合わせて適宜臥床休息したり、夜間もゆっくりと眠れるように環境整備に努めている。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個々の服用している薬一覧表を作成、副作用なども理解出来るように、職員全員が把握出来るようにしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個々に応じた楽しく過ごせる時間を考え、作るようにしている。玄関ロビーのソファ等で自由に気分転換出来るよう柔軟に対応している。</p>		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人及び家族の希望に添えるように外出支援している。コロナウィルス流行後は外食気分を感じてもらえるに季節に合った手作り弁当を作ったり工夫した対応をしている。	コロナ禍ではあるが、自宅や馴染みの場所への外出が可能。本人の思いを受け入れ、戸外に出たい時には短時間でも外出できるように個別の支援を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望があれば、本人が所持することも出来るようにと柔軟な対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	いつでも手紙や電話のやり取りが出来るように対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた飾り付けをしたり、ゆったりとくつろげる空間づくりをしている。	木のぬくもりが感じられる開放感のある空間で、ホールには明るい日差しが差し込み、季節の飾り付けやゆったりくつろげるソファが配置され、過ごしやすい環境となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関口付近にテーブルやソファを置いて気の合う利用者同士が交流したり、くつろげるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた物や、好みの物、思いでの品々や写真など持ち込んでもらい、本人が安心して居心地の良い居室になるように配慮している。	本人・家族と相談し、自宅で使い慣れた家具や私物が持ち込まれ、居心地の良いその人らしい居室環境が保たれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全館バリアフリーで廊下やトイレに手すりもあり、安全に生活出来るようにしている。居室内は本人の状態に応じた環境づくりをしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない